

# ＊新刊紹介＊

ご恵送いただいたご著書の中から、新刊のご紹介です。

## 『「生まれ変わり」を科学する — 過去生記憶から紐解く「死」、 「輪廻転生」そして人生の真の意味 —』



大門正幸 著  
(おおかどまさゆき)

桜の花出版  
2021年11月11日発行

いつも「サムライ・平和」に、貴重な読後感想をお寄せくださる中部大学大学院教授の大門正幸先生の新刊のご紹介です。

「生まれ変わり」研究の世界的拠点・米バージニア大学の客員教授でもある大門先生が、過去生記憶保持者のデータベース2000例を超える最新のデータを分析し、私たちの本質が肉体ではなく意識（魂）であること、意識は肉体という制約を超えて互いに繋がりにあること、死後も、生まれ変わってもその愛の絆は失われずにまた巡り会うという、今この人生をより輝く美しいものにかえる生命の秘密を教えてください。

国際融合文化学会会長

宗片邦義 作 ©

イブセン 『人形の家』ほか（毛利三彌訳）による

創作能 ノーラ（人形の家）

シェイクスピア作 『ジュリアス・シーザー』による

能 ジュリアス・シーザー

「全ての生あるものがその「生」を享受し<sup>まっ</sup>全うしうる  
調和を創造すること」

（国際融合文化学会モットー）

イプセン『人形の家』ほか(毛利三彌訳)による

## 創作能 ノーラ(人形の家)

宗片邦義作

(2021.10) ©

〔構想〕ノルウェイを訪ねた日本僧がノーラの夫(ヘルメル)に出会う。(前場)

ノーラとヘルメルの過去が明かされる。アイガタリ(間語)

日本僧の祈りとノーラのタランテツラ能舞と・・・。(後場)

(制作キーポイント…能形式にこだわらず、能の初心者にも分かり易い詞章・演出)

所 ノルウェイ

季節 春

曲柄 四番目・劇能(所要時間、一時間二十分)

## 人物

シテ……ノーラ（ヘルメルの妻）

ツレ……ヘルメル（ノーラの夫、上級弁護士・銀行支店長）

ワキ……日本僧

間<sup>アイ</sup>狂言 男1・ランク（医者）の霊

女1・リンデ夫人（ノーラの友人）

男2・クログスタ（ヘルメルの同僚、銀行員）

女2・ノーラ（ヘルメルの妻）

男3・ヘルメル（ノーラの夫）

地<sup>じうたい</sup>謡（三・四名）。囃<sup>はやし</sup>子（笛・小鼓<sup>こつみ</sup>・大鼓<sup>おおつみ</sup>・太鼓<sup>たいこ</sup>）

## 前<sup>まえ</sup>場<sup>ば</sup>

「ワキ（日本僧）登場」

名ノリ  
ワキ

「これは日本海の傍らより出でたる、一介の僧なり。われ未だ北歐はスカンディナヴィアの海山を、見ず。さればこの度、思ふところあり。北歐諸国を行脚せんとて、出で立ちたり

道行・ヨウ

「ノルウェイとは北の道とか来てみれば。北極近き青海原。また半島に近づけば。美しきかなノルウェイ海岸。島々数々点在し。水たたへたるフィヨルドよ。また静かなる街並みの。風格備へしたたずまひ。これぞノルウェイ王国なる。はやノルウェイに着きにけり。はやノルウェイに着きにけり

詞

「見渡せば春の花々、一面に咲き乱れ。また遠く広がる青海原を、眺めてあれば。文豪イブセンの好みて描きたる、海の女の。今にも目の前に現るる、心地あり。思へばわが、日本にても。一千九百、十一年。

かの女優、松井須磨子が。ノーラを初演し国内外に、知られしとか。

しばらく我は、この地に留まり。この美しきフィヨルドや海の青さを満喫せんと、思ふなり

「ツレ（ヘルメル）登場、橋掛ヨリ」

呼掛

ツレ

「なうなう。それなる人に尋ね申すべき、ことのあり。そなたは日本より来たりし、

僧にてはなきか

ワキ 「いかにも我は日本より参りたる、僧にてあるよ。何事やある

ツレ 「さる人より、聞き及びたる。人の生き死にに、拘かかはらず。人の意識おもいを呼び出だし  
うるとは、真まことなるか

ワキ 「我いまだ、修行の身なれば。人の想ひを呼び出だすなどは、思ひもよらず

ツレ 「何といまだ人の心は、読めぬと申すか。さればそなたは、何を修行するものぞ

ワキ 「読経どきょう・法事ほうじ・作務さむ、坐禅いっさいちじょう。一挙一動が、修行にて。その眼目がんもくは、見性けんしょう即ち悟り  
なり

ツレ 「いやいやそなたの、まことの仕事は。悩める人を、救ふにてはなきか

カカル 「日本よりめぐり来たりし旅僧よ。願はくはわが悩みを聞き。われを救ひ給へや

ワキ 「何とそなたは悩みごとを聞かせんとて。我を呼び止めたるか

ツレ 「まことさなればいま直ぐにも ワキ 「語り給へやいざ聞かん

ツレ 「さらば思ひを ワキ 「晴らさせたまへ

「ワキ、ワキ座へ。ツレ舞台しょうなか正中二坐シ」

下歌・抑エテ  
地 「はや三年みとせ。三年の春は過ぎ去りて。なほいつまでかこの思ひ。何を頼みに待つ身

かな

上歌

「三年まへ。妻に語りし言の葉を。今は激しく悔やむなり。なにゆえかほど悪し様に。罵りわめき責めたるや。わが運命は君ゆえに。奈落の底に沈みしと。思ひいだすも恥づかしや。吐きし言葉のおぞましき。我は汝を八年のあひだ誇りに思ひしに。猫被りたる偽善者よ。おのれの為せるを知りたるか。犯罪者よ。われにその責め負はず者。すべては父の遺伝ならん。われはこれにて破滅なりと。かく恐ろしき言葉もて。妻を責めたて追ひ出したる。ああわが妻を呼び出だし。われに呼び寄せ給へかし。呵責慙愧のこの思ひ。晴らさせたまへ御僧よ

「囃子アリ。ワキ祈ル。

「ヤガテシテ（ノール）橋掛二現ワレル」

シテ

「春夏秋冬変はりあり。自然の法に従へば変はらぬものこそ哀れなれ  
「わが夫なりし者よ。われこそ参りたるよ

「舞台二人リ」

「三年前。われはそなたに捨てられて。家出せるにはあらずとよ。われこそそなたを見捨てたれ。そなたに奇跡を期待せるが。わが思ひたりし君ならず。自らを探さんためと言ひけるが。まことはわがため君がため。さてさてわが夫なりし人

よ。いかほどまこと変はりたるや。見せさせ給へわが夫よ

ツレ 「我は夫とし親として。正しき道を歩みたり。さらにこの世に法あれば。法律をこそ守りたれ。また世に行はる慣習も。すべて守りて恐れなし。一筋に君を想ひ。また子らのために働けり

シテ 「されば汝は三年前と。変はるところはあるまじや。われ別人とならんと。誓ひの言葉を忘れしか。われを留めんそのための言の葉のみに過ぎざりしか。今われをいかに思ふや聞かせたまへ

ツレ 「三年のあひだ君なくて。わが不自由は限りなし。我は汝をいかばかり。必要とせるか身に沁みたり。妻として母として。汝は我に不可欠なり。帰り来たれやわが妻よ。変はることなく愛すなり

シテ 「そなたは愛を誤解せり。愛と必要とは異なり。必要なりとはそなたの都合。それ愛せるにはさらにあらず。愛にはあらずエゴなるとよ

地 「愛は必要にはあらず。そなたの愛は己が必要。愛にはあらずエゴなるよ。相手思はぬ冷たさよ。いまだにかやうのことさへも。知らず気づかぬ愚かさよ。いまだ目覚めぬ古人よ

シテ 「われは再び失望せり。この世の人よ。目覚めてよ